

令和4年度 長崎大学2次試験前期日程 (数学問題)

令和4年2月25日

- 教育A・経済・水産・環境科学部 ① ② 数I・II・A・B (80分)
- 教育B・薬学・歯学・工学部 ② ③ ④ ⑤ 数I・II・III・A・B (120分)
- 医学部 ② ③ ⑥ ⑦ 数I・II・III・A・B (120分)
- 情報データ科学部 ② ③ ④ 必答, ⑤ ⑧ の2題から1題選択
数I・II・III・A・B (120分)

① 以下はそれぞれ個別の問題である。各問いに答えよ。

(1) 点 $P(x, y)$ が次の連立不等式

$$x + 2y \leq 6, \quad 3x + y \leq 9, \quad x \geq 0, \quad y \geq 0$$

の表す領域を動くとき、 $2x + y$ の最大値、およびそのときの P の座標を求めよ。

(2) $0 \leq \theta < \pi$ のとき、次の不等式を満たす θ の値の範囲を求めよ。

$$\cos 2\theta + \sqrt{3} \sin 2\theta \geq 1$$

(3) 以下で定義される数列 $\{a_n\}$ がある。

$$a_1 = 2, \quad a_{n+1} = 2a_n - 1 \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

このとき、一般項 a_n および $\sum_{k=1}^n 2ka_k$ を、それぞれ求めよ。

(4) 母線の長さが1、高さが h の円錐がある。この円錐の体積を $V(h)$ とするとき、 $V(h)$ の最大値、およびそのときの h の値を求めよ。

2 空間内の4点 $O(0, 0, 0)$, $A(1, 2, 3)$, $B(1, 1, -1)$, $C(7, 3, 5)$ がある. 直線 OA 上の動点 P に対して, 線分 BP , CP の長さの平方の和 $BP^2 + CP^2$ の最小値と, 線分の長さの和 $BP + CP$ の最小値を求めたい. 以下の問いに答えよ.

- (1) $\overrightarrow{OP} = t\overrightarrow{OA}$ (t は実数) とするとき, $BP^2 + CP^2$ を t の式で表せ.
- (2) $BP^2 + CP^2$ の最小値と, そのときの P の座標を求めよ.
- (3) 2点 B, C から直線 OA に垂線を下ろし, 交点をそれぞれ H, K とするとき, H, K の座標を求めよ. また, 2つのベクトル $\overrightarrow{HB}, \overrightarrow{KC}$ のなす角を θ ($0 \leq \theta \leq \pi$) とするとき, $\cos \theta$ の値を求めよ.
- (4) $BP + CP$ の値が最小となるのは, P が線分 HK をどのような比に分けるときかを説明せよ. また, そのときの P の座標, および $BP + CP$ の値を求めよ.

3 以下はそれぞれ個別の問題である. 各問いに答えよ.

- (1) $a > 0$ とする. $a + a^{-1} = 18$ のとき, $a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}}$ および $a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}}$ の値をそれぞれ求めよ.

- (2) 次の方程式

$$\log_{\frac{1}{3}}(9x^2) \cdot \log_3 \left(\frac{x}{81} \right) = -12$$

を解け.

- (3) $0 \leq \theta < 2\pi$ のとき, 次の不等式を満たす θ の値の範囲を求めよ.

$$\cos 2\theta + \sqrt{3} \sin 2\theta \geq 1$$

- (4) 次の方程式

$$z^4 = -8 - 8\sqrt{3}i$$

を解け. ただし, i は虚数単位である.

4 自然数 n に対して、以下で定義される x の 2 次関数 $f_n(x)$ がある。

$$f_1(x) = 3x^2$$

$$f_2(x) = 3x^2 + 4x$$

⋮

$$f_{n+2}(x) = 3x^2 + 4x \int_0^1 f_{n+1}(t) dt - \int_0^1 f_n(t) dt \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

$a_n = \int_0^1 f_n(t) dt$ とおくとき、以下の問いに答えよ。

- (1) a_1, a_2 の値を、それぞれ求めよ。
- (2) a_{n+2} を、 a_{n+1} と a_n を用いて表せ。
- (3) $b_n = a_{n+1} - a_n$ とする。 b_n と a_n を、それぞれ n の式で表し、2 次関数 $f_n(x)$ を求めよ。
- (4) $x = \alpha$ で、 $f_{n+1}(x) - f_n(x)$ は、すべての自然数 n に対して一定の値 β をとる。このとき、 α と β の値を求めよ。また、2 つの曲線 $y = f_n(x)$ と $y = f_{n+1}(x)$ 、および直線 $x = \alpha$ で囲まれる図形の面積 S_n を求めよ。

5 曲線 $C: y = e^x$ 上の点 $P(t, e^t)$ における接線を l とする。ただし、 $0 < t < 1$ である。以下の問いに答えよ。

- (1) l の方程式を求めよ。また、 l と y 軸との交点を Q とし、 l と x 軸との交点を R とする。このとき、2 点 Q, R の座標を、それぞれ求めよ。
- (2) 不定積分 $\int \log x dx$ および $\int (\log x)^2 dx$ を、それぞれ求めよ。
- (3) l と x 軸および y 軸で囲まれた図形を D_1 とし、これを y 軸の周りに 1 回転してできる回転体の体積を $V_1(t)$ とする。同様に、 C と l および y 軸で囲まれた図形を D_2 とし、これを y 軸の周りに 1 回転してできる回転体の体積を $V_2(t)$ とする。このとき、 $V_1(t)$ と $V_2(t)$ を、それぞれ t を用いて表せ。
- (4) $V(t) = V_1(t) + V_2(t)$ とするとき、 $V(t)$ の最小値、およびそのときの t の値を求めよ。

6 原点を O とする xy 座標平面上に、楕円 $C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ ($a > b > 0$) と、 C 上を動く点 $P(a \cos \alpha, b \sin \alpha)$ ($0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$) がある。以下の問いに答えよ。

- (1) C の方程式の両辺を x で微分し、 P における C の接線の傾きを求めよ。また、この接線の方程式は $\frac{\cos \alpha}{a}x + \frac{\sin \alpha}{b}y = 1$ であることを示せ。
- (2) P における C の接線と x 軸および y 軸とで囲まれる三角形の面積 S の最小値を求めよ。また、このときの P を点 Q とし、 Q における C の接線を l とする。 Q の座標および l の方程式を、 a, b を用いて表せ。
- (3) C 上の点 $R(a \cos \beta, b \sin \beta)$ ($\frac{\pi}{2} < \beta < \pi$) における接線 m が、(2) で求めた l と垂直に交わるものとし、その交点を A とする。このとき、 $\tan \beta$ の値および R の座標を、 a, b を用いて表せ。
- (4) (2) と (3) における Q, R, A について、線分 OQ, OR, OA の長さの平方 OQ^2, OR^2, OA^2 をそれぞれ a, b を用いて表し、線分 OQ, OR, OA の長さの大小を比較せよ。

7 自然数 n に対して、 $I_n = \int_1^e (\log x)^n dx$ とする。ただし、 e は自然対数の底であり、無理数である。以下の問いに答えよ。

- (1) I_1, I_2 の値を、それぞれ求めよ。また、 I_{n+1} を I_n を用いて表せ。
- (2) a および b を有理数とする。 $a + be = 0$ ならば $a = 0$ かつ $b = 0$ であることを、背理法を用いて証明せよ。
- (3) すべての n に対して、 $I_n = A_n + B_n e$ (A_n, B_n は有理数) と表すことができる。このことを数学的帰納法を用いて証明せよ。
- (4) (3) における A_n に対して、 $C_n = \frac{A_n}{(-1)^{n+1}n!}$ とする。このとき、 C_n および A_n を、それぞれ n を用いて表せ。
- (5) (3) における B_n は、 $B_n = 1 + \sum_{i=1}^n (-1)^i {}_n P_i$ であることを数学的帰納法を用いて証明し、 I_5 の値を求めよ。
ただし、 ${}_n P_r = \frac{n!}{(n-r)!}$ (r は $r \leq n$ の自然数) であり、 $0! = 1$ とする。

- 8 動点 P は数直線上の座標 1 あるいは -1 にある. 表が出る確率 p ($0 < p < 1$), 裏が出る確率 $1 - p$ のコインを投げ, その結果により P に以下のような操作を行う.

操作

- 表が出たとき, P が 1 にあれば -1 に, -1 にあれば 1 に移動させる.
- 裏が出たとき, P は動かさない.

コインを n 回投げたときの P の座標を X_n とし, $X_n = 1$ となる確率を q_n とする. 最初に P は 1 にあるものとして, 以下の問いに答えよ.

- (1) q_1, q_2, q_3 を, それぞれ p を用いて表せ.
- (2) q_{n+1} を p と q_n を用いて表せ.
- (3) q_n を p と n を用いて表せ.
- (4) 確率変数 X_n の平均 $E(X_n)$, 分散 $V(X_n)$, 標準偏差 $\sigma(X_n)$ を, それぞれ p と n を用いて表せ.

解答例

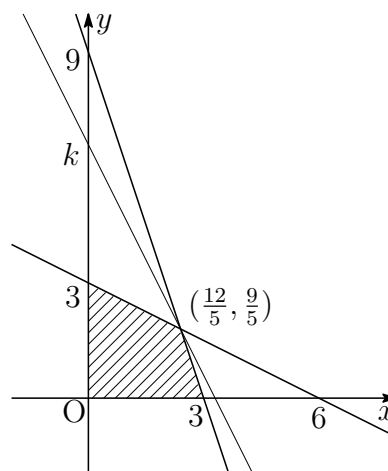
1 (1) 連立不等式

$$x + 2y \leq 6, \quad 3x + y \leq 9, \quad x \geq 0, \quad y \geq 0$$

の表す領域は、右図の境界を含む斜線部分。
境界線 $x + 2y = 6$, $3x + y = 9$ の交点は

$$\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$$

$2x + y = k$ とおくと、直線 $y = -2x + k$ が
この領域を通るとき、 k が最大となるのは、
上の交点を通るときである。



したがって $P\left(\frac{12}{5}, \frac{9}{5}\right)$ で、 k は最大値 $\frac{33}{5}$ をとる。

(2) 不等式 $\cos 2\theta + \sqrt{3}\sin 2\theta \geq 1$ ($0 \leq \theta < \pi$) より

$$\sin\left(2\theta + \frac{\pi}{6}\right) \geq \frac{1}{2}, \quad \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} < 2\pi + \frac{\pi}{6}$$

したがって $\frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} \leq \frac{5\pi}{6}$ よって $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{3}$

(3) $a_1 = 2$, $a_{n+1} = 2a_n - 1$ より $a_{n+1} - 1 = 2(a_n - 1)$

$\{a_n - 1\}$ は初項 $a_1 - 1 = 1$, 公比 2 の等比数列であるから

$$a_n - 1 = 1 \cdot 2^{n-1} \quad \text{ゆえに} \quad a_n = 2^{n-1} + 1$$

これから $2ka_k = 2k(2^{k-1} + 1) = k2^k + 2k \quad \dots \textcircled{1}$

ここで、 $(k+1)2^{k+1} - k2^k = k2^k + 2^{k+1}$ より

$$k2^k = \{(k+1)2^{k+1} - k2^k\} - 2^{k+1} \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ② より、 $2ka_k = \{(k+1)2^{k+1} - k2^k\} - 2^{k+1} + 2k$ であるから

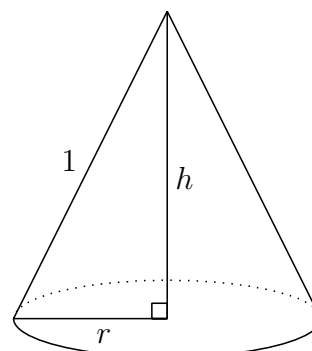
$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n 2ka_k &= \sum_{k=1}^n \{(k+1)2^{k+1} - k2^k\} - \sum_{k=1}^n 2^{k+1} + \sum_{k=1}^n 2k \\ &= (n+1)2^{n+1} - 2 - \frac{4(2^n - 1)}{2 - 1} + n(n+1) \\ &= (n-1)2^{n+1} + n^2 + n + 2 \end{aligned}$$

(4) 円錐の底面の半径を r とすると

$$r^2 = 1 - h^2 \quad (0 < h < 1)$$

したがって

$$\begin{aligned} V(h) &= \frac{\pi}{3} r^2 h = \frac{\pi}{3} (1 - h^2) h \\ &= \frac{\pi}{3} (h - h^3) \end{aligned}$$



$$V(h) \text{ を微分すると } V'(h) = \frac{\pi}{3} (1 - 3h^2)$$

これから $V(h)$ の増減表は

h	(0)	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$...	(1)
$V'(h)$		+	0	-	
$V(h)$		↗	極大	↘	

$$\text{よって } h = \frac{1}{\sqrt{3}} \text{ のとき, 最大値 } V\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{2\sqrt{3}}{27}\pi$$

2 (1) $\vec{OP} = t\vec{OA} = t(1, 2, 3)$, $\vec{OB} = (1, 1, -1)$, $\vec{OC} = (7, 3, 5)$ より

$$\vec{BP} = \vec{OP} - \vec{OB} = (t-1, 2t-1, 3t+1),$$

$$\vec{CP} = \vec{OP} - \vec{OC} = (t-7, 2t-3, 3t-5)$$

したがって

$$\begin{aligned} BP^2 + CP^2 &= |\vec{BP}|^2 + |\vec{CP}|^2 \\ &= (t-1)^2 + (2t-1)^2 + (3t+1)^2 \\ &\quad + (t-7)^2 + (2t-3)^2 + (3t-5)^2 \\ &= 28t^2 - 56t + 86 \end{aligned}$$

(2) (1) の結果から $BP^2 + CP^2 = 28(t-1)^2 + 58$

よって $t=1$, すなわち, $\mathbf{P(1, 2, 3)}$ のとき, 最小値 **58** をとる.

$$(3) \vec{OH} = \frac{\vec{OB} \cdot \vec{OA}}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA}, \quad \vec{OK} = \frac{\vec{OC} \cdot \vec{OA}}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA} \text{ であるから } ^1$$

$$|\vec{OA}|^2 = 14, \quad \vec{OB} \cdot \vec{OA} = 0, \quad \vec{OC} \cdot \vec{OA} = 28$$

$$\text{ゆえに } \vec{OH} = \vec{0}, \quad \vec{OK} = 2\vec{OA} = 2(1, 2, 3)$$

$$\text{よって } \mathbf{H}(0, 0, 0), \mathbf{K}(2, 4, 6)$$

$$\text{また } \vec{HB} = \vec{OB} = (1, 1, -1), \quad \vec{KC} = \vec{OC} - \vec{OK} = (5, -1, -1)$$

したがって、 \vec{HB} , \vec{KC} のなす角 θ は

$$\cos \theta = \frac{\vec{HB} \cdot \vec{KC}}{|\vec{HB}| |\vec{KC}|} = \frac{1 \cdot 5 + 1 \cdot (-1) + (-1) \cdot (-1)}{\sqrt{3} \cdot 3\sqrt{3}} = \frac{5}{9}$$

(4) $BP + CP$ の値が最小となるとき、 $\triangle BPH \sim \triangle CPK$ であるから

$$|\vec{HB}| : |\vec{KC}| = \sqrt{3} : 3\sqrt{3} = 1 : 3 \quad \text{ゆえに } HP : PK = 1 : 3$$

$$\vec{OP} = \frac{1}{1+3} \vec{OK} = \frac{1}{4} \cdot 2\vec{OA} = \frac{1}{2} \vec{OA} \text{ であるから } \mathbf{P} \left(\frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right)$$

$$\begin{aligned} BP^2 &= OB^2 + OP^2 = OB^2 + \left(\frac{1}{2} OA \right)^2 \\ &= 3 + \frac{1}{4} \cdot 14 = \frac{26}{4} \quad \text{ゆえに } BP = \frac{\sqrt{26}}{2} \end{aligned}$$

$$CP = 3BP \text{ であるから } BP + CP = 4BP = 4 \cdot \frac{\sqrt{26}}{2} = 2\sqrt{26} \quad \blacksquare$$

$$\boxed{3} \quad (1) (a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}})^2 = a + a^{-1} + 2 = 18 + 2 = 20$$

$$a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}} > 0 \text{ であるから } a^{\frac{1}{2}} + a^{-\frac{1}{2}} = 2\sqrt{5}$$

$$(a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}})^3 - 3(a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}}) = a + a^{-1} = 18 \text{ より, } x = a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}} \text{ とおくと}$$

$$x^3 - 3x = 18 \quad \text{ゆえに } (x-3)(x^2 + 3x + 6) = 0$$

$$x > 0 \text{ であるから } x = 3 \quad \text{よって } a^{\frac{1}{3}} + a^{-\frac{1}{3}} = 3$$

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri.2017.pdf (p.5 の補足を参照)

$$(2) \quad (*) \quad \log_{\frac{1}{3}}(9x^2) \cdot \log_3 \left(\frac{x}{81} \right) = -12$$

真数は正であるから

$$9x^2 > 0 \quad \text{かつ} \quad \frac{x}{81} > 0 \quad \text{すなわち} \quad x > 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$(*) \text{ を変形すると } -(2\log_3 x + 2)(\log_3 x - 4) = -12$$

$$(\log_3 x)^2 - 3\log_3 x - 10 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (\log_3 x + 2)(\log_3 x - 5) = 0$$

$$\text{したがって} \quad \log_3 x = -2, 5 \quad \textcircled{1} \text{ に注意して} \quad \mathbf{x = \frac{1}{9}, 243}$$

$$(3) \quad \text{不等式 } \cos 2\theta + \sqrt{3}\sin 2\theta \geq 1 \quad (0 \leq \theta < 2\pi) \text{ より}$$

$$\sin \left(2\theta + \frac{\pi}{6} \right) \geq \frac{1}{2}, \quad \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} < 4\pi + \frac{\pi}{6}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} \leq \frac{5\pi}{6}, \quad 2\pi + \frac{\pi}{6} \leq 2\theta + \frac{\pi}{6} \leq 2\pi + \frac{5\pi}{6}$$

$$\text{よって} \quad \mathbf{0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{3}, \quad \pi \leq \theta \leq \frac{4\pi}{3}}$$

$$(4) \quad z^4 = -8 - 8\sqrt{3}i = 16 \left(-\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = 2^4 \left(\cos \frac{4\pi}{3} + i \sin \frac{4\pi}{3} \right)$$

$$|z| = 2, \quad 4 \arg z = \frac{4\pi}{3} + 2k\pi \quad \text{ゆえに} \quad \arg z = \frac{\pi}{3} + \frac{k}{2}\pi$$

$$0 \leq \arg z < 2\pi \text{ であるから} \quad k = 0, 1, 2, 3$$

$$\text{したがって} \quad |z| = 2, \quad \arg z = \frac{\pi}{3}, \frac{5\pi}{6}, \frac{4\pi}{3}, \frac{11\pi}{6}$$

$$\text{よって} \quad \mathbf{z = 1 + \sqrt{3}i, \quad -\sqrt{3} + i, \quad -1 - \sqrt{3}i, \quad \sqrt{3} - i} \quad \blacksquare$$

4 (1) 漸化式から

$$a_1 = \int_0^1 f_1(t) dt = \int_0^1 3t^2 dt = \left[t^3 \right]_0^1 = 1$$

$$a_2 = \int_0^1 f_2(t) dt = \int_0^1 (3t^2 + 4t) dt = \left[t^3 + 2t^2 \right]_0^1 = 3$$

(2) (*) $f_{n+2}(x) = 3x^2 + 4a_{n+1}x - a_n$ であるから

$$\begin{aligned} a_{n+2} &= \int_0^1 f_{n+2}(t) dt = \int_0^1 (3t^2 + 4a_{n+1}t - a_n) dt \\ &= \left[t^3 + 2a_{n+1}t^2 - a_nt \right]_0^1 \\ &= 1 + 2a_{n+1} - a_n \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から $a_{n+2} - a_{n+1} = a_{n+1} - a_n + 1$ ゆえに $b_{n+1} = b_n + 1$
 $\{b_n\}$ は初項 $b_1 = a_2 - a_1 = 3 - 1 = 2$, 公差 1 の等差数列であるから

$$b_n = 2 + 1(n - 1) = n + 1$$

$a_{n+1} - a_n = n + 1$ であるから, $n \geq 2$ のとき

$$\sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = \sum_{k=1}^{n-1} (k + 1)$$

ゆえに $a_n - 1 = \frac{1}{2}(n-1)(n+2)$ 整理すると $a_n = \frac{1}{2}n(n+1)$

これは, $n = 1$ のときも成立するから $a_n = \frac{1}{2}n(n+1)$
 $n \geq 3$ のとき, これを (*) に代入すると

$$f_n(x) = 3x^2 + 2(n-1)nx - \frac{1}{2}(n-2)(n-1)$$

上式は, $n = 1, 2$ のときも成立するから

$$f_n(x) = 3x^2 + 2(n-1)nx - \frac{1}{2}(n-2)(n-1)$$

(4) (3) の結果から

$$\begin{aligned}
 (**) \quad f_{n+1}(x) - f_n(x) &= 2\{n(n+1) - (n-1)n\}x \\
 &\quad - \frac{1}{2}\{(n-1)n - (n-2)(n-1)\} \\
 &= 4nx - (n-1) \\
 &= n(4x-1) + 1
 \end{aligned}$$

$x = \frac{1}{4}$ のとき, すべての自然数 n に対して, 上式は 1 であるから

$$\alpha = \frac{1}{4}, \quad \beta = 1$$

$g_n(x) = f_{n+1}(x) - f_n(x)$ とおくと, (**) より, $g_n(x)$ は 1 次関数であり, $g_n(x) = 0$ の解を γ とすると

$$\gamma = \frac{1}{4} - \frac{1}{4n} = \alpha - \frac{1}{4n} \quad \text{ゆえに} \quad \alpha - \gamma = \frac{1}{4n}$$

$$g_n(\alpha) = 1 \quad \text{より} \quad S_n = \frac{1}{2}(\alpha - \gamma)g_n(\alpha) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{4n} \cdot 1 = \frac{1}{8n}$$

補足 $g_n(\alpha) \geq 0, g_n(\gamma) \geq 0$ のとき $S_n = \frac{1}{2}|\alpha - \gamma|\{g_n(\alpha) + g_n(\gamma)\}$ ■

- 5 (1) $C: y = e^x$ を微分すると $y' = e^x$
 C 上の点 $P(t, e^t)$ における接線 l は

$$y - e^t = e^t(x - t)$$

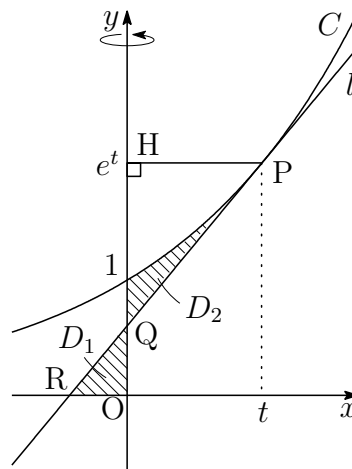
すなわち $y = e^t(x - t + 1)$

$x = 0$ のとき, $y = e^t(1 - t)$ であるから

$$Q(0, e^t(1 - t))$$

$y = 0$ のとき, $x = t - 1$ であるから

$$R(t - 1, 0)$$



- (2) 部分積分法により

$$\begin{aligned} \int \log x \, dx &= \int (x)' \log x \, dx = x \log x - \int dx \\ &= x(\log x - 1) + C_1 \quad (C_1 \text{は積分定数}), \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int (\log x)^2 \, dx &= \int (x)' (\log x)^2 \, dx = x(\log x)^2 - 2 \int \log x \, dx \\ &= x(\log x)^2 - 2x(\log x - 1) + C_2 \\ &= x\{(\log x)^2 - 2 \log x + 2\} + C_2 \quad (C_2 \text{は積分定数}) \end{aligned}$$

別解 $t = \log x$ とおくと, $x = e^t$, $\frac{dx}{dt} = e^t$ であるから

$$\begin{aligned} \int \log x \, dx &= \int e^t t \, dt = e^t \{t - (t)'\} + C_1 \\ &= e^t(t - 1) + C_1 \\ &= x(\log x - 1) + C_1, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int (\log x)^2 \, dx &= \int e^t t^2 \, dt = e^t \{t^2 - (t^2)' + (t^2)''\} + C_2 \\ &= e^t(t^2 - 2t + 2) + C_2 \\ &= x\{(\log x)^2 - 2 \log x + 2\} + C_2 \end{aligned}$$

ここでは, 次の積分公式を利用している².

$$\begin{aligned} \int e^{px} f(x) \, dx &= \frac{e^{px}}{p} \left\{ f(x) - \frac{f'(x)}{p} + \frac{f''(x)}{p^2} - \frac{f'''(x)}{p^3} + \dots \right\} + C \\ \int e^x f(x) \, dx &= e^x \{f(x) - f'(x) + f''(x) - f'''(x) + \dots\} + C \end{aligned}$$

²http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_math-2015-kouki.pdf (p.7 を参照)

(3) $V_1(t)$, $V_2(t)$ の体積は, 前ページの図から ($C: x = \log y$)

$$\begin{aligned} V_1(t) &= \frac{1}{3}\pi OR^2 \cdot OQ \\ &= \frac{\pi}{3}(1-t)^2 \cdot e^t(1-t) = \frac{\pi}{3}e^t(1-t)^3, \\ V_2(t) &= \frac{1}{3}\pi PH^2 \cdot QH - \pi \int_1^{e^t} (\log y)^2 dy \\ &= \frac{\pi}{3}t^2 \cdot \{e^t - e^t(1-t)\} - \pi \left[y\{(\log y)^2 - 2\log y + 2\} \right]_1^{e^t} \\ &= \frac{\pi}{3}e^t t^3 - \pi\{e^t(t^2 - 2t + 2) - 2\} \\ &= \pi \left\{ e^t \left(\frac{t^3}{3} - t^2 + 2t - 2 \right) + 2 \right\} \end{aligned}$$

別解 バウムクーヘン型の求積法を用いると³, D_2 を y 軸の周りに 1 回転させて
できる立体の体積 $V_2(t)$ は, $C: y = e^x$, $l: y = e^t x + (1-t)e^t$ より

$$\begin{aligned} \frac{V_2(t)}{2\pi} &= \int_0^t x\{e^x - e^t x - (1-t)e^t\} dx \\ &= \left[e^x(x-1) - \frac{1}{3}e^t x^3 - \frac{1}{2}(1-t)e^t x^2 \right]_0^t \\ &= e^t \left(\frac{t^3}{6} - \frac{t^2}{2} + t - 1 \right) + 1 \end{aligned}$$

(4) (3) の結果から

$$\begin{aligned} V(t) &= V_1(t) + V_2(t) = \frac{\pi}{3}e^t(1-t)^3 + \pi \left\{ e^t \left(\frac{t^3}{3} - t^2 + 2t - 2 \right) + 2 \right\} \\ &= \pi \left\{ e^t \left(t - \frac{5}{3} \right) + 2 \right\}, \\ V'(t) &= e^t \left(t - \frac{2}{3} \right) \end{aligned}$$

$0 < t < 1$ における $V(t)$ の増減表は

t	(0)	...	$\frac{2}{3}$...	1
$V'(t)$		-	0	+	
$V(t)$		\searrow	極小	\nearrow	

よって, $V(t)$ は $t = \frac{2}{3}$ のとき, 最小値 $V\left(\frac{2}{3}\right) = \pi(2 - e^{\frac{2}{3}})$ をとる. ■

³<http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/kumadai.i.2016.pdf> [2]

- 6 (1) $C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ の両辺を x で微分すると ($y \neq 0$)

$$\frac{2x}{a^2} + \frac{2yy'}{b^2} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad y' = -\frac{b^2x}{a^2y}$$

C 上の点 $P(a \cos \alpha, b \sin \alpha)$ における接線の傾きは、 $b \sin \alpha \neq 0$ に注意して

$$y' = -\frac{b^2 \cdot a \cos \alpha}{a^2 \cdot b \sin \alpha} = -\frac{b \cos \alpha}{a \sin \alpha}$$

したがって、 C 上の点 P における接線 l の方程式は

$$y - b \sin \alpha = -\frac{b \cos \alpha}{a \sin \alpha} (x - a \cos \alpha)$$

両辺に $\frac{\sin \alpha}{b}$ を掛けると $\frac{\sin \alpha}{b} (y - b \sin \alpha) = -\frac{\cos \alpha}{a} (x - a \cos \alpha)$

整理すると $\frac{\cos \alpha}{a} x + \frac{\sin \alpha}{b} y = 1$

- (2) (1) で示した接線の x 切片、 y 切片がそれぞれ、 $\frac{a}{\cos \alpha}$ 、 $\frac{b}{\sin \alpha}$ であるから

$$S = \frac{1}{2} \cdot \frac{a}{\cos \alpha} \cdot \frac{b}{\sin \alpha} = \frac{ab}{\sin 2\alpha} \geq ab \quad \left(0 < \alpha < \frac{\pi}{2}\right)$$

$\alpha = \frac{\pi}{4}$ で S は最小値 ab をとる。 $Q\left(\frac{a}{\sqrt{2}}, \frac{b}{\sqrt{2}}\right)$, $l: \frac{x}{\sqrt{2}a} + \frac{y}{\sqrt{2}b} = 1$

- (3) C 上の点 $R(a \cos \beta, b \sin \beta)$ ($\frac{\pi}{2} < \beta < \pi$) における接線 m は

$$\frac{\cos \beta}{a} x + \frac{\sin \beta}{b} y = 1$$

2直線 l , m の法線ベクトルは、それぞれ $\left(\frac{1}{\sqrt{2}a}, \frac{1}{\sqrt{2}b}\right)$, $\left(\frac{\cos \beta}{a}, \frac{\sin \beta}{b}\right)$ であり、これらは垂直であるから

$$\frac{\cos \beta}{\sqrt{2}a^2} + \frac{\sin \beta}{\sqrt{2}b^2} = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \tan \beta = -\frac{b^2}{a^2}$$

このとき $\frac{1}{\cos^2 \beta} = 1 + \tan^2 \beta = \frac{a^4 + b^4}{a^4}$, $\frac{1}{\sin^2 \beta} = 1 + \frac{1}{\tan^2 \beta} = \frac{a^4 + b^4}{b^4}$

$\frac{\pi}{2} < \beta < \pi$ より、 $\cos \beta = -\frac{a^2}{\sqrt{a^4 + b^4}}$, $\sin \beta = \frac{b^2}{\sqrt{a^4 + b^4}}$ であるから

$$R\left(-\frac{a^3}{\sqrt{a^4 + b^4}}, \frac{b^3}{\sqrt{a^4 + b^4}}\right)$$

(4) (2) の結果から, l の方程式は

$$l : bx + ay = \sqrt{2ab}$$

また, (3) の結果から, m の方程式は

$$m : -ax + by = \sqrt{a^4 + b^4}$$

これらの2式から, l と m の交点 $A(x, y)$ について

$$\begin{aligned} (bx + ay)^2 + (-ax + by)^2 &= (\sqrt{2ab})^2 + (\sqrt{a^4 + b^4})^2 \\ (a^2 + b^2)(x^2 + y^2) &= (a^2 + b^2)^2 \\ x^2 + y^2 &= a^2 + b^2 \\ \mathbf{OA^2} &= \mathbf{a^2 + b^2} \end{aligned}$$

また, (2), (3) の結果から

$$\mathbf{OQ^2} = \frac{\mathbf{a^2 + b^2}}{\mathbf{2}}, \quad \mathbf{OR^2} = \frac{\mathbf{a^6 + b^6}}{\mathbf{a^4 + b^4}}$$

以上の結果から

$$\begin{aligned} \mathbf{OA^2 - OR^2} &= \mathbf{a^2 + b^2 - \frac{a^6 + b^6}{a^4 + b^4}} = \frac{\mathbf{a^2 b^2 (a^2 + b^2)}}{\mathbf{a^4 + b^4}} > 0, \\ \mathbf{OR^2 - OQ^2} &= \frac{\mathbf{a^6 + b^6}}{\mathbf{a^4 + b^4}} - \frac{\mathbf{a^2 + b^2}}{\mathbf{2}} = \frac{\mathbf{(a^2 + b^2)(a^2 - b^2)^2}}{\mathbf{2(a^4 + b^4)}} > 0 \end{aligned}$$

したがって $\mathbf{OA^2 > OR^2 > OQ^2}$ よって $\mathbf{OA > OR > OQ}$ ■

7 (1) $I_n = \int_1^e (\log x)^n dx$ より (n は自然数)

$$\begin{aligned} I_1 &= \int_1^e \log x dx = \left[x(\log x - 1) \right]_1^e = \mathbf{1}, \\ I_2 &= \int_1^e (\log x)^2 dx = \left[x\{(\log x)^2 - 2\log x + 2\} \right]_1^e = \mathbf{e} - \mathbf{2}, \\ I_{n+1} &= \int_1^e (x)'(\log x)^{n+1} dx \\ &= \left[x(\log x)^{n+1} \right]_1^e - (n+1) \int_1^e (\log x)^n dx \\ &= \mathbf{e} - (\mathbf{n} + \mathbf{1})\mathbf{I}_n \end{aligned}$$

(2) $a + be = 0$ について (a, b は有理数), $b \neq 0$ とすると

$$e = -\frac{a}{b}$$

上式の左辺は無理数, 右辺は有理数であるから, 不合理.

$b = 0$ であるから, これを $a + be = 0$ に代入すると $a = 0$

よって, $a + be = 0$ ならば (a, b は有理数), $a = 0$ かつ $b = 0$

(3) (*) $I_n = A_n + B_n e$ (A_n, B_n は有理数)

[1] $n = 1$ のとき, $I_1 = 1 + 0 \cdot e$ より, (*) は成立する.

[2] $n = k$ のとき, (*) が成立する, すなわち,

$$I_k = A_k + B_k e \quad (A_k, B_k \text{ は有理数})$$

であると仮定すると, (1) で示した漸化式により

$$\begin{aligned} I_{k+1} &= e - (k+1)I_k = e - (k+1)(A_k + B_k e) \\ &= -(k+1)A_k + \{1 - (k+1)B_k\}e \end{aligned}$$

これから

$$A_{k+1} = -(k+1)A_k, \quad B_{k+1} = 1 - (k+1)B_k \quad (**)$$

とおくと, A_{k+1}, B_{k+1} は有理数であるから, $n = k+1$ のときも (*) は成立する.

[1], [2] により, すべての自然数 n について, (*) は成立する.

(4) (**) の第 1 式の両辺を $(-1)^{k+1}(k+1)!$ で割ると

$$\frac{A_{k+1}}{(-1)^k(k+1)!} = \frac{A_k}{(-1)^k k!} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{A_n}{(-1)^n n!} = \frac{A_1}{(-1)^1 1!}$$

$$A_1 = 1 \text{ であるから } A_n = (-1)^{n+1} n! \quad \text{また} \quad C_n = \frac{A_n}{(-1)^{n+1} n!} = 1$$

$$(5) \text{ (#)} \quad B_n = 1 + \sum_{i=1}^n (-1)^i {}_n P_i$$

[1] $n = 1$ のとき, $I_1 = 1 + 0 \cdot e$ より, $B_1 = 0$

$$\text{(#)} \text{ より } B_1 = 1 + \sum_{i=1}^1 (-1)^i {}_1 P_i = 1 + (-1) = 0$$

よって, $n = 1$ のとき, (#) は成立する.

[2] $n = k$ のとき, (#) が成立する, すなわち

$$B_k = 1 + \sum_{i=1}^k (-1)^i {}_k P_i$$

が成り立つと仮定すると, (**) の第 2 式から

$$\begin{aligned} B_{k+1} &= 1 - (k+1)B_k \\ &= 1 - (k+1) \left\{ 1 + \sum_{i=1}^k (-1)^i {}_k P_i \right\} \\ &= 1 + (-1)^1 {}_{k+1} P_1 + \sum_{i=1}^k (-1)^{i+1} {}_{k+1} P_{i+1} \\ &= 1 + (-1)^1 {}_{k+1} P_1 + \sum_{i=2}^{k+1} (-1)^i {}_{k+1} P_i = 1 + \sum_{i=1}^{k+1} (-1)^i {}_{k+1} P_i \end{aligned}$$

よって, $n = k+1$ のときも (#) は成立する.

[1], [2] より, すべての自然数 n について, (#) は成立する.

(4) および上の結果を用いて

$$\begin{aligned} I_5 &= A_5 + B_5 e = (-1)^6 5! + \left\{ 1 + \sum_{i=1}^5 (-1)^i {}_5 P_i \right\} e \\ &= 120 + (1 - 5 + 20 - 60 + 120 - 120)e \\ &= 120 - 44e \end{aligned}$$

補足 $I_1 = 1$, $I_{n+1} = e - (n+1)I_n$ より

$$\frac{(-1)^{n+1}}{(n+1)!}I_{n+1} - \frac{(-1)^n}{n!}I_n = \frac{(-1)^{n+1}e}{(n+1)!}$$

したがって, $n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} \left\{ \frac{(-1)^{k+1}}{(k+1)!}I_{k+1} - \frac{(-1)^k}{k!}I_k \right\} &= \sum_{k=1}^{n-1} \frac{(-1)^{k+1}e}{(k+1)!} \\ \frac{(-1)^n}{n!}I_n + 1 &= \sum_{k=2}^n \frac{(-1)^k e}{k!} \end{aligned}$$

$$\sum_{k=2}^n \frac{(-1)^k e}{k!} = \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k e}{k!} \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} I_n &= (-1)^{n+1}n! + (-1)^n n! \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k e}{k!} \\ &= (-1)^{n+1}n! + e \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^{n-k} n!}{k!} \\ &= (-1)^{n+1}n! + e \sum_{k=0}^n \frac{(-1)^k n!}{(n-k)!} = (-1)^{n+1}n! + e \sum_{k=0}^n (-1)^k {}_n P_k \end{aligned}$$

上式は, $n = 1$ のときも成立する. よって

$$A_n = (-1)^{n+1}n!, \quad B_n = \sum_{k=0}^n (-1)^k {}_n P_k = 1 + \sum_{k=1}^n (-1)^k {}_n P_k$$

また, $t = \log x$ とおくと, $x = e^t$, $\frac{dx}{dt} = e^t$ であるから (p.12 参照)

$$\begin{aligned} I_n &= \int_1^e (\log x)^n dx = \int_0^1 e^t t^n dt = \left[e^t \sum_{k=0}^n (-1)^k (t^n)^{(k)} \right]_0^1 \\ &= \left[e^t \sum_{k=0}^{n-1} (-1)^k {}_n P_k t^{n-k} + e^t (-1)^n n! \right]_0^1 \\ &= e \sum_{k=0}^n (-1)^k {}_n P_k + (-1)^{n+1}n! \end{aligned}$$

■

- 8 (1) q_1 は、1回目に裏が出る確率であるから $q_1 = 1 - p$
操作により、次の確率漸化式が成立する.

$$q_{n+1} = (1-p)q_n + p(1-q_n) \quad \text{すなわち} \quad q_{n+1} = (1-2p)q_n + p \quad (*)$$

これを变形すると

$$q_{n+1} - \frac{1}{2} = (1-2p) \left(q_n - \frac{1}{2} \right)$$

数列 $\left\{ q_n - \frac{1}{2} \right\}$ は初項 $q_1 - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(1-2p)$, 公比 $1-2p$ の等比数列より

$$q_n - \frac{1}{2} = \frac{1}{2}(1-2p) \cdot (1-2p)^{n-1} \quad \text{よって} \quad q_n = \frac{1}{2} \{ 1 + (1-2p)^n \} \quad (**)$$

$n = 2, 3$ を (**) に代入すると

$$q_2 = 1 - 2p + 2p^2, \quad q_3 = 1 - 3p + 6p^2 - 4p^3$$

(2) (*) より $q_{n+1} = (1-2p)q_n + p$

(3) (**) より $q_n = \frac{1}{2} \{ 1 + (1-2p)^n \}$

(4)

X_n	1	-1	合計
$P(X_n)$	q_n	$1 - q_n$	1

$$E(X_n) = 1q_n + (-1)(1 - q_n) = 2q_n - 1 = (1 - 2p)^n$$

$$E(X_n^2) = 1^2q_n + (-1)^2(1 - q_n) = 1$$

したがって

$$V(X_n) = E(X_n^2) - E(X_n)^2 = 1 - (1 - 2p)^{2n}$$

$$\sigma(X_n) = \sqrt{V(X_n)} = \sqrt{1 - (1 - 2p)^{2n}}$$

